

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300020		
法人名	医療法人英知会		
事業所名	グループホームグッドスマイルズ		
所在地	山口市桜島2丁目9番32号		
自己評価作成日	令和3年11月19日	評価結果市町受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個々の接し方、「その人らしさ」「その方にとっての当り前」を大切にしている。入居者ができることはしていただき、できないことに職員が寄り添う事を理念に掲げている。
当法人母体の医療機関と密に連携し、入居者の体調管理を常に行い、速やかな緊急時対応体制をとっている。個々に応じた心身機能の維持やプリントや言葉を使ったレク等の脳活性の維持をケアプランに挙げ取り組んでいる。
また、2階ユニットは本年5月から共用型デイサービスを開設し、デイサービス利用者との交流も脳活性につながっている。
開設当初から市場直送の新鮮な刺身の提供、平成26年から依頼している外部歯科の往診(月1〜2回)、看取りへの取り組みも継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりのペースやできる力を大切にしておられ、服選びも先ず利用者に選んでいただいてから、季節や着心地に応じた支援をする、食事介助の必要な方も先ず箸等を持って頂き、意欲が見られれば御自身で食べて頂いて見守るなど、利用者を元気づける声かけを忘れずに、日常生活の支援をしておられます。職員は細やかな観察で利用者の体調を見守られ、訪問看護師や主治医と連携されて、健康管理に力を入れておられます。新型コロナの感染予防対策に留意されて、家族との面会ができるよう支援されています。外部との交流が困難な中、利用者が寂しい思いされないように、敬老会では来訪できなくなったボランティアの代わりに、職員自身がギター演奏やマジックの披露されたり、利用者が自分で綿菓子やかき氷を作って楽しめる夏祭り、季節感のあるおやつ作りや装飾工作など、利用者の喜びや楽しさにつなげるレクリエーションの企画に、職員が主体的に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、これまでの暮らし方を続けていただけるように個々のペースでできることはしていただき、出来ないことは職員が寄り添い「その方らしさ」を大切する。また地域との交流を図ることを心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。全体ミーティング前や申し送り時に唱和して、職員間で理念を共有している。理念の下、利用者のペースやできることなど、「その人らしさ」を大切にしたいケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため昨年から外出を禁止しており地域交流の機会はない。コロナが落ち着き再び外出が可能になれば、地域との交流を持ちたい。	自治会に加入し、地区行事に利用者と職員が一緒に参加していたが、現在はコロナ禍の影響でできていない。大学生や保育園児との交流も中断している。散歩や近隣の商店での買い物なども、中止している。5月から開設した共用型認知症デイサービスの利用者と、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している施設だよりを法人内に掲示して、地域の方々の理解を図っている。相談に来られた方は随時対応している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員一人一人が取り組み、項目内容についての理解を行っている。ケア課題、改善点を会議や申し送りで話し合い、介護の質を高めるように努めている。	管理者が評価の意義や項目の意味を職員に伝え、全職員に評価のための書類を配布して、記入してもらい管理者がまとめている。外部評価結果は全職員に回覧して報告している。内部研修を活用して「評価の意義と項目の理解」に取り組んでいるが、目標達成計画の活用や評価を活かした改善への取り組みが十分とはいえない。	・評価を活かした改善への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催。入居状況、活動報告、内部研修等の報告。会議での意見は、ホーム内で持ち帰り話し合いサービス向上に活かしている。新型コロナウイルス感染予防のため昨年度から中止しているが、資料作成し関係者に見て頂けるようにしている。	会議は、2ヶ月に1回(内2回は法人他事業所と合同)開催している。今年は、コロナ禍への対応で、利用者の状況、ヒヤリハット報告、活動状況報告などを資料で報告している。メンバーからの意見はない。	・メンバーから意見を得るための工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の不明な点や確認事項など必要に応じて市の担当者に連絡・相談をして明確にしている。また包括支援センターの職員とも運営推進会議等で情報交換を行い、山口市の情報を獲得している。	市担当者とは、直接出向いたり電話などで相談し、助言を得ているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、法人を通して事例相談や情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関わる指針を作成し、2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会会議を開催。スピーチロック等への意識付けにも取り組んでいる。玄関施錠は、感染症等予防対策、不審者対応で実施している。	「身体拘束にかかわる指針」があり、2ヶ月に1回、全職員が参加して開催する身体拘束廃止委員会や内部研修で、事例検討やスピーチロック等への意識付けをしている。会議に参加できなかった職員には個別に伝達している。玄関は施錠しているが、外出したい利用者には、話を聞いたり、コロナ禍への対応が必要なことを納得してもらって気分転換の支援をしている。スピーチロックで気になるところは管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待にあたる項目を確認、理解するよう努めている。日頃の言葉使いや接し方に注意し、虐待防止への意識を高め防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は以前この制度・事業に関わったことがあり、入居者等が活用したい場合、その経験を活かせるように努める。入居前から成年後見人制度を利用されている入居者がおられる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約締結には時間を十分かけ、入居者ご家族に不安なく入居していただけるよう努めている。解約、改定等の際も不安、疑問点があれば速やかに対応し理解納得していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応体制を契約書掲載とホーム玄関内掲示で明確化。また苦情、受付時に速やかに処理手続きを行う事を定め、解決と今後のケースや運営に生かすことに努めている。	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きを、重要事項説明書等で家族に説明している。面会時や年1回の家族会、運営推進会議への参加時、受診支援の時などに、家族からの意見や要望を聞いていたが、コロナ禍のため、面会や会議への参加ができにくくなっている。意見や要望は、管理者へ電話等で直接に伝えてもらい、内容によりその場で回答したり、後日、回答している。家族から面会の要望があり、事前予約を受けて、県内在住家族は曜日を限定して、問診、検温、マスクの着用、消毒を行ったうえで、換気に配慮した相談室でアクリル板越しに、時間を限定した面会を行い、県外在住の家族は、ガラス越しでの面会を行うなど、状況に合わせた対応をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、ケアカンファレンス、月例会議などの場を活用し、職員間の意見交換・情報交換等を行い、記録に残している。各ユニットに申し送りノートを用意し、活用している。	管理者は2ユニット合同の全体ミーティング（月1回）や、月2、3回のケアカンファレンス、毎日の申し送り、日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。議事録は全職員に回覧したり、ユニット毎の申し送りノートで意見を共有している。職員の意見や提案により、施設設備の補修や勤務体制の組み方、職員が担当する年間行事やレクリエーションなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に適切な評価が出来るように面接を行っている。また、労働基準法を遵守し、専属労務士が人事考課、給与査定を行う。給与水準について今後の国の政策に期待する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修の実施し職員の自己研鑽の機会を作る。新人職員には担当が付き、指導し、早期に業務に慣れ環境に適応できるよう配慮している。 コロナ禍で外部研修には参加していない。	この1年はコロナ禍で外部研修には参加していない。内部研修は、法人の事業所が連携して年間計画を立て、月1回、全体ミーティング時に、感染症予防、看取り、災害火災対応、身体拘束、プライバシー保護、高齢者虐待、新型コロナウイルス感染症予防、事故対策・発生予防と緊急対応、誤嚥、嚥下障害、認知症症状とケアなどについて、職員が講師となって実施している。毎月1回、歯科医による口腔衛生指導を行い、2ヶ月に1回、研修の観点からも身体拘束廃止委員会を開催している。資格取得にかかる研修等の情報提供を行い、受講時の勤務を調整するなどの支援しているが、この1年の受講はない。新人職員には、日常業務の中で先輩職員が指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。同業者間の情報交換ができる体制と作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時センター方式(生活歴等の情報収集)をご家族に依頼、入居後は生活習慣や思いなどの情報を職員がご本人からの聞き取るなどで情報収集・共有することで、その方らしい環境づくりが速やかに整うように配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、ご家族によって特段の事情があれば配慮している。 いずれの方も、入居間もなくは日常の様子を管理者が連絡している。ご家族からの不安や要望などを聞かせていただくよう相互のコミュニケーションの構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者ご自身、ご家族、主治医、ケアマネジャーその他関係者等からの情報で包括的に検討し、その人らしい暮らしが出来るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とともに洗濯物干し、たたみ、テーブル拭き等の家事を行っていたり、時には入居者ご自身に委ねる事で、支え合っているという関係を築くように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況を毎月1回発行の入居者だよりとお手紙にご家族に郵送。新型コロナウイルス感染予防のため面会を長く禁止していたため今年6月に心身の様子、介護の状況など詳しい近況をご家族宛に送付した。11月から面会は解禁したが外出外泊は禁止。ご家族からの手紙や電話はその都度対応している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルス感染予防のため面会は県内家族とし、受診付添以外の外出外泊は禁止のため馴染みの関係の継続支援は困難。 コロナ禍以前、毎週末は教会礼拝を続けられていた入居者は、仲間から毎週教会の冊子が届いており関係性が続いている。 ②共用型デイサービス利用者とは入居以前にデイサービス仲間であった方がおられ、交流が復活している。	家族の面会や親戚、友人、知人の来訪があり、馴染みの美容室の利用、友人の協力を得ての日曜ごとの教会の礼拝への参加や、家族の協力を得ての正月の自宅外泊などの支援をしている。コロナ禍以降は面会や外出が制限されている。現在は県内在住家族は曜日を限定して、問診、検温、行動履歴確認を行ったうえで、マスクの着用、消毒を行い、相談室で15分の面会を行っている。県外在住家族はガラス越しの面会を行うなど、感染状況に合わせて面会を緩和している。面会が困難な家族には利用者の状態の変化などを電話で連絡している。電話や手紙での交流や、誕生日や記念日などの贈り物の受け取り、日曜礼拝仲間から毎週届く教会冊子の手渡しなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや体操、家事作業を一緒に行う事や仲の良い入居者を隣席にするなどで気軽にコミュニケーションがとれるようにしている。また、トラブルは必要に応じて職員が仲裁し、穏やかな関係の継続に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例はないが、他施設の利用となられた退去者も必要があれば対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の入居者の発言などから本人の思い、希望などの把握に努めている。意思表示の困難な方には表情や言動から思いを汲み取るよう努め、職員間で意見交換や情報を共有し、本人本位に検討している。	入居時に本人や家族から基本情報を聞き、センター方式の「私の姿と気持ちシート」を活用している。「24時間生活変化シート」を活用すると共に、日々の関わりの中での利用者の表情の変化や仕草、発した言葉などを、「介護記録」に記録してカンファレンスで話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は声かけ時の表情の変化などからくみ取り、職員間で話し合って、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入。入居者本人から聞くこと、また、入居時にご家族に記入していただく事、その後も面会、電話等の機会などで、それまでの暮らしや入居までの経緯等を把握し、情報を収集している。必要であれば入居後、入居前の施設等に情報収集を行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理表記録や、介護記録等で常に心身の状態を把握し、申し送り時などで職員間で情報を共有している。身体的な変化は訪問看護師に報告し、医療との連携を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者個々の担当職員が意向や困り事等を聞き、計画作成者と職員でカンファ開催。センター方式を実施し「その方らしく」、また主治医・訪問看護師からは医療的な意見をもらってケアプランに活かしている。毎月末には担当職員がモニタリングを実施している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となってカンファレンスで話し合い、主治医や訪問看護師らの意見を参考に、利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。利用者を担当する職員が月1回、介護記録をチェックしてモニタリングを行うと共に、6ヶ月毎に介護計画のモニタリングをして見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化にあれば、その都度見直し、現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、毎月のバイタルチェック表、プランの達成状況の有無と実施の詳細を記録し、評価している。また、プランの見直しに反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階ユニットに開設した共用型デイサービスの利用者と一緒に日中を過ごしたり、行事を共有することで、入居者の社会性が生まれている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この1年は、新型コロナウイルス感染予防の観点で外出禁止のため、地域の社会資源と協働する機会はない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者ご自身、ご家族の希望にてかかりつけ医を選択して頂いている。現在は全入居者、協力医療機関のドクター往診月2回、訪問看護師が週2回、その他必要時には即座に対応してもらえる体制が出来ている。	利用者や家族の要望により、全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回、協力医療機関の訪問診療を受け、他科は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は月2回訪問診療がある。受診結果は介護記録に記録して、受診報告書や申し送りノートで情報を共有し、家族には電話で報告している。週2回、訪問看護師が来訪して、利用者の健康チェックと職員からの相談を受けている。訪問看護師は24時間オンコールで、常に電話で相談し、状況に応じて訪問看護師やかかりつけ医師が来訪している。緊急時には訪問看護師や協力医療機関と連携して対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から医療連携体制を整え、協力医療機関の医師、看護師へ入居者の状態の連絡を密にし、必要時の対応や受診に速やかに対応できるように徹底している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様やご家族から、退院後、当施設に戻りたいというご意向が多く、入院中の病院関係者と密な連絡はしっかり行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応の方針に基づいて説明し、同意の上署名捺印をいただいている。実際重度化した場合、ご家族、主治医、訪問看護師、関係者等で話し合い、医療機関への移設を含めて、方針を共有し支援に努めている。 看取りの体制も実施している。	契約時に家族に「重度化対応の指針」に基づいて、重度化した場合に事業所のできる対応について説明している。実際に重度化した場合は家族や本人の意向を聞き、主治医や看護師等と話合って方針を決めて共有し、家族から同意書を得て、支援に取り組んでいる。 看取りの意向があれば「看取りに関する指針」により介護計画をたて、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故発生時はミーティングし、記録に残し、再発防止に取り組んでいる。特に、服薬ミス防止のため、配薬、与薬のダブルチェックを行っている。また、内部研修で応急手当や初期対応の訓練を行う予定である。	事例が生じた場合はその日の職員で話し合い、ヒヤリハット・事故報告書に記録して全職員に回覧し、全体ミーティングで再発防止の検討をしている。配薬、与薬のダブルチェックを行って服薬ミスの防止に取り組んでいる。内部研修で、事故対策（発生予防と緊急時の対応）、転倒事故・外傷の時の対応について学び、新任者等には訪問看護師が個別にその都度指導している。全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているといえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための訓練の充実

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(昼想定年2回、夜想定年1回)実施。今年度は6月に風水害の避難訓練を実施。火災避難訓練は11月26日実施予定。	年2回、法人他施設と合同で昼夜間の火災を想定した消火、通報、避難訓練、避難経路の確認を、年1回、事業所単独で風水害を想定した通報、避難訓練を、利用者も参加して実施している。コロナ禍により、訓練に消防署や消防団などの参加がなくなり、運営推進会議の中止によって、地域の人との防災対策の検討ができなかつていない。運営推進会議に地区の消防団長がメンバーとなっており、消防団との連絡体制ができているが、地区の交流が少なくなった中で、協力体制が十分とはいえない。	・地域との協力体制を築く工夫
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳に配慮した呼称や言葉遣い、敬語使いを心がけている。また居室入時はノックや本人の許可を得て行っており、プライバシー保護に努めている。	職員は内部研修でプライバシーの保護について学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳に配慮した言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は、管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。個人情報取扱いに配慮し、守秘義務を順守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の自己決定できる機会を多く設け、すぐに自己決定できない方には時間を設けることでご自身の思いや希望が表しやすい環境づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の際、入居者の意に沿わない、拒否がみられる場合は強要しないとしている。活動・休息のリズムもご自身の意向や体調に合わせた対応を心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪訪問の機会を利用し身だしなみやおしゃれを楽しむ支援している。衣類を選ぶときも、好みを聞いたり、一緒に選ぶ支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の衛生的配慮のため盛り付け・米とぎ・箸配り・食器洗いは職員がしているが、テーブル拭きを入居者にしている。食事は配食を利用しているが、入居者の好みを聞き、それを業者に伝え食事の楽しみの工夫もしている。 おやつ作りのレクを通して、料理の楽しみや喜びを支援している。	ご飯は事業所で炊き、利用者の状態に応じて、自分で食べやすい小さめのおにぎりにする、おかゆやソフト食にする、とろみをつける、使いやすいカトラリーを使用する、嗜好に応じて梅干しやふりかけなどを提供する、など工夫している。副食は配食を利用して、利用者の好みを把握して食品交換を行っている。利用者はテーブル拭き、盆拭きなど出来ることを職員と一緒にやっている。季節の行事食（おせち、ひな寿司、夏祭りでのかき氷や綿菓子作り、クリスマスケーキ、年越しそばなど）、おやつづくり（クッキー、ホットケーキ、どら焼き、きんつば、スイートポテトなど）、平日昼食の刺身、食後のコーヒー、家族からの差入れの果物（りんご他）や菓子の提供など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事量、水分量の記入を行い、個々の状態の把握に努めている。また、必要に応じて、とろみや形態を変更することで、なるべく食べていただけるように工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施し清潔保持を支援。自力で歯磨きできる方は声掛けと確認を行い、他の方は職員が状態に応じた介助を行っている。義歯の夜間つけ置き洗浄を実施。訪問歯科で個々の口腔内の状態を把握している。 月に1回歯科医師の指導を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康管理表での排泄のチェック、個々の排泄リズムを把握している。それを元に声掛けやトイレの誘導のタイミングを図っている。排泄の自立の可能性を視野に入れた介護を心掛けている。	健康管理表を活用してパターンを把握し、利用者一人ひとりに応じたタイミングで言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎身体操の時間で便秘予防にも気を付けている。また、便秘傾向の強い方には起床時にコップ1杯の水を提供して腸の動きを促進する支援を行う。個々の排便状況を訪問看護師に報告し、必要に応じての指示を受けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は最低週2回を基本としているが、毎日できるようにしている。体調やご自身の希望と意思を尊重し、無理強いないように配慮している。入浴を好まない方への声掛けはタイミングや時間帯を変えたり、スタッフを変え声掛け等の工夫をする。	入浴は毎日、午前、午後可能で、週2、3日職員との会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には無理強いしないで、入浴時間を変更したり、声かけのタイミングや職員を交代するなど工夫をしている。利用者の状態に合わせてシャワー浴、足浴などの部分浴、清拭、ベットでの手足浴など、一人ひとりに応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の毎日の体調をその都度みて、昼寝や静養を促している。また、室内照明や空調、寝具等もご自身の好みに配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録ファイルにその方の薬の説明書を添付、常時確認できるようにしている。また、薬の変更時の状態変化などにも速やかに、主治医・看護師との連携をとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの喜びとなる趣味活動や役割等で、その方らしい暮らしが続けていただけることを大切にしている。嗜好品はご家族に相談して預かり金より購入。 ②共用型ディサービスを通して他者交流を図っていただいている。	節分、ひな祭、七夕飾りづくり、夏祭り(綿菓子作り、かき氷、ビンゴゲーム)、敬老会(職員のマジックショーやギター演奏)、クリスマスのリース作り、クリスマス会、ミニ運動会(パン食い競争、大玉ころがし、玉入れ競争)などの季節の行事、誕生日会、テレビやラジオの視聴、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、紙工作、カレンダーづくり、ラジオ体操、DVD体操、ストレッチ体操、口腔体操、棒体操、上下肢運動、個別体操、ゴボウ先生の体操、風船バレー、食事作りゲーム(献立の食材を集める)、歌を歌う、脳トレ(計算、漢字、ことわざ、四文字熟語、早口言葉、しりとり)、おやつ作り、食事の準備、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、ディサービス利用者との交流など、日々の暮らしを喜びや張り合いをもって過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年からの新型コロナウイルス感染予防のため外出行事、地区行事への参加、家族との外出外泊は禁止としている。	初詣や季節の花見(紅葉、桜)、友人の送迎での日曜礼拝、事業所周辺の散歩、商店での買い物、馴染みの美容室の利用、家族の協力を得ての正月の自宅外泊など、家族や地域の人々と協力して日常的に外出できるように支援している。コロナ禍以降は外出を自粛しており、近隣の桜の花見の他は、事業所内で季節を感じてもらえるように、季節の花を活けたり、季節行事や季節のおやつ作りなどで気分転換の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の入居者の小遣いをご家族からお預かりし、収支管理し、毎月ご家族に報告している。使用目的で必要がある場合はご家族に相談している。 コロナ禍で入居者とスタッフが一緒に買い物に行くことや外出行事でお金を所持する機会がない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話を掛けられたり、難しい方はお手伝いをしている。入居者宛の電話がかかってきた場合もスムーズに対応できるように配慮している。手紙の投函を支援し、自由にやりとりしていただいている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差や障害物なく、安心・安全に車椅子や自力歩行できるよう配慮。共有スペースにソファを置き、入居者が自由に寛げ、室温や照明にも常に配慮し、居心地のいい空間作りを提供。季節ごとの貼り絵などを飾り、季節を感じていただいている。	居間兼食堂は大きな窓があり自然の光が差し込んで明るい。壁面には職員の季節の切り絵や利用者の作品を飾り、季節の花を活けている。食事用のテーブルや椅子、ソファを設置して、利用者は思い思いの居場所で過ごしている。対面式の台所からはご飯を炊く匂いがしたり、盛り付けや食器を洗う様子が伺え生活感がある。洗濯室は浴室の脱衣所と別になっており、整理整頓されて清潔感がある。車イス用のトイレは三枚扉で軽い力で開けやすくなっている。温度や湿度、換気、消毒に配慮して、居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは食事の際の自席が配置されているが、ソファを設置する事で、入居者が好きな時に自由に寛げる居心地のいい空間、他者交流の場となるように配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの品物や家具、写真、仏壇等を持ち込まれる事で、それまでの生活と変わらないその人らしい暮らしが続けられるように配慮している。	ベット、箆筒、机、いす、籐椅子、ハンガーラック、衣装ケース、鏡台、テレビ、仏壇、衣類、ぬいぐるみ、化粧道具、日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、仏花や供え物、家族の写真、カレンダー、誕生日カード、自分の作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてトイレや居室の目印を付けたら、入居者個々が動きやすい家具の配置の配慮などご自身の判断での行動が安全で安心できるようにしている。出来る事はしていただき、出来ない事は寄り添うが、常に入居者の立場を尊重した生活を心掛けている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームグッドスマイルズ

作成日： 令和 4 年 4 月 26 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4-3	全職員で自己評価や外部評価により出た課題を改善する取り組みが不十分である。	自己評価や外部評価で出た課題に全職員が一丸となって取り組む。	①応急手当や転倒。外傷時の初期対応の実践力を習得する訓練や研修開催。 ②災害時の訓練を開催する時、地域（推進会議のメンバーや近所）に発信周知する。可能なら参加依頼。	1年間
2	35-15	応急手当等の実践力を充実させる。	全職員を対象に応急手当や転倒、外傷時の初期対応の訓練、研修を開催し、習得する。	テーマを設けて、看護師指導で実践的な研修会を開催する。	1年間
3	5-4	コロナ禍で従来通りでの運営推進会議の開催を中止しており、構成メンバーからの意見が得られていない。	メンバーからの意見を得る。	貰いたいご意見の項目を作り、文章やメール・電話等を使い、ご意見を頂戴する。	1年間
4	36-16	災害時に備えた地域との協力体制を充実させる。	日常から、災害時に備え、常日頃から地域との協力体制を構築する。	①災害時訓練開催にあたって、地域（推進会議のメンバーや近所）に発信周知する。可能なら参加依頼。 ②地域の防災対策情報を収集。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。